

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社 R-CORPORATION

## ②施設・事業所情報

名称：小さな足あと保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：原 弘毅	定員（利用人数） 75名（76名）	
所在地：〒232-0017 神奈川県横浜市南区宿町4-75-1		
TEL：045-341-3430	ホームページ：http://ashiato-hoikuen.com/	
【施設・事業所の概要】認可保育園の運営		
開設年月日 2012年5月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人美希福祉会		
職員数	常勤職員：13名	非常勤職員：12名
専門職員	保育士:11名（常勤）	保育士：10名（非常勤）
		看護師・准看護師：2名（非常勤）
施設・設備 の概要	（居室数）9部屋	（設備等）
	保育室4 事務室1 休憩室1 相談室1 調理室1 調理控室1	エレベーター

## ③理念・基本方針

子どもたちはみなが豊かに伸びてゆく可能性をその内に秘めています。その子どもたちが現在を最もよく生き、望ましい未来を創り出す力の基礎を培うことを保育の基本方針とします。そのために職員は子どもや家庭などへの分け隔てのない、人権を尊重した保育を実践します。さらに、より質の高い保育を実践するために、保護者から意見や要望などあった場合は真摯に耳を傾け、分かり易く説明することによって、子どもを中心とした家庭と園の連携や相互理解を深めるよう努めます。

④施設・事業所の特徴的な取組

●小さな足あと保育園の運営母体は、社会福祉法人 美希福祉会（以下、法人という）であり、法人の事務局を横浜市に置き、福岡県久留米市に2園、そして福岡市、横浜市、川崎市、東京都にそれぞれ1園を運営・実施しています。法人では、各園を開設している自治体の方針、公的補助等の形態が様々であることを踏まえ、法人本部機能を強化して一括対応するよりも各保育園が所在する場所に応じた対応に努めることにより、行政との距離感、連携が図りやすいと考え、運営権限を大幅に各園長に委ね、各園の独立経営を実施しています。職員の教育については、法人全体で共通の「ポリシーブック」を作成し、統一ある教育を進めています。「ポリシーブック」の根幹には、外に対しては「地域社会から期待される保育園」を目指し、子どもに対しては「自分を大切にできる」個々の育成を目指し、“自分を大切にすることから人の気持ちを大切にできる”ことを教えています。この教えは、全職員、保護者にも同様に伝えています。「ポリシーブック」の内容は、観念的な内容で構成され、「～すべき」、「～べからず」と言う同化的な強要ではなく、各項目について職員が参加型で話し合う研修を行い、その過程・ディスカッションの結果を大切にすることを実施しています。職員自身は「自分を大切にできる」を常に心がけ、子ども・保護者に対しても「自分を大切にすることから人・子ども・保護者の気持ちを大切にできる」を実践し、育成及び成果が日々の保育に生きています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年4月16日（契約日）～ 2019年11月13日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（2012年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点  
**1. 【縦割り保育】**  
 ●小さな足あと保育園では、3歳以上児の各クラス（3歳児：ローズ、4歳児：オリーブ、5歳児：ミント）の他に、各年齢で7人ずつの縦割りクラス（ミルク・ココア）を設定して活動しています。基本的に日中は縦割りのクラスで過ごしていますが、年齢別保育の活動をしっかり設定した上で実施され、年齢別のクラスを超えて異年齢で関わりながら活動する保育を積極的に取り入れています。縦割り保育では、子どもたちが兄弟姉妹のように助け合いながら成長し、職員と共に大家族のような雰囲気の中で愛情をいっぱい受け、小さな足あと保育園の子どもたちは伸び伸びと明るく、豊かな感性を育てています。縦割り保育により、年上の子どもは年下に対して何かを教えようとしたり、危険から守ろうとする等、責任感が芽生え、お手伝いの行為が大人に褒められる多くの機会は子どもの自信や自己肯定感につながっています。また、年上の子どもの存在は年下の子どもに憧れの感情を呼び起こし、新たなチャレンジを始めたり、理想を抱く等、互いを認め合える関係を構築し、大切な感情が豊かに育まれています。

## 2. 【食育の推進】

●小さな足あと保育園では積極的に食育に取り組み、「食環境」という面を大切にしてい取り組んでいます。園では、設計・建設時点から対策を進め、先ず、完全給食の実施を決定し、「あったかい食事」に拘り、おやつも無添加で安全な自然食品を主体に提供しよう力を入れています。また、設計段階から「食環境」を意識して外からも園内からも「見えるキッチン」を設け、子ども・保護者の食への関心をより育むことに腐心しました。園舎1階の広いロビーに向けて開かれた大きな窓から見えるキッチンは食を子どもの身近なものにし、調理のあったかい匂いが食欲を高め、調理を作る職員が見え、清潔感あるキッチンは食への興味、楽しさを誘っています。

## 3. 【特別レッスン】

●小さな足あと保育園では、特別レッスンとして「お楽しみ英会話」（2歳～5歳児）と「和太鼓やよさこい」等、和の文化への取り組み（3歳～5歳児）を行っています。「お楽しみ英会話」では、ネイティブの外部講師を招き、数や簡単な質問・回答形式で英会話を行い、ゲーム等を通じて英語・異文化に触れ、親しんでいます。「和太鼓やよさこい」等では、日本の伝統文化を継承しながらリズム感や連帯感を身に付け、成果を夏祭りや音楽会でも披露しています。特別レッスンは、多文化に触れることを大切に、子どもの吸収力や思わぬ可能性の発見等、幅広い人格育成に貢献しています。

◇改善を求められる点

## 1. 【さらなる保育の質の向上について】

●保育の質の向上については、いずれの保育園でも最大の課題と言えます。どこまでやれば完璧かと考えれば限りなくあります。親子が1対1で向き合ってもできないことを、定められた職員定数で対応する日常的な課題、問題は常に発生しますが、発生した問題等をいかに解決することができるか、問題等の発生をいかに未然防止とするかが最大の課題であり、その為の体制作りと実施における職員一人ひとりの実力を備えるバランスが重要になってきます。先ずは、構成員全体のレベルアップと現状の職員個々のスキルアップが望まれ、個々の職員のレベルアップが図られれば組織全体のレベルも上がります。職員個人々が子どもの異変に気付くことを第一に、そのスキルの条例が課題だと思われます。職員一人ひとりの力を結集し、その力のベクトルが組織力となるよう、研鑽を重ねていかれることを期待しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 社会福祉法人美希福祉会 小さな足あと保育園  
施設長名 原 弘毅

《第三者評価を受審した感想》

開園から7年が経過し、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様や関係各所に協力を頂きながら保育環境の向上を目指しながら運営しています。第三者評価は行政の指導監査と違う角度からの評価であり、園や法人の保育理念・方針と実施状況の確認や職員との面談など、文言と行動の一致不一致が確認できる機会となりました。

担当職員がチームを組み、自らの保育・職務について細かく自己評価していく過程は、改めて自らの仕事や組織としての働き方を見つめなおす機会となり、多くの気づきが発見できました。また、自らは特に意識していなかったことを評価頂いたことは職員の自信になり、今後のやりがいにつながります。園が、職員がエビデンスに裏付けられた保育に自信をもって取り組むことが環境向上につながります。

子どもたちにとって最善の保育園になるために、保護者の皆様や関係各所と連携しながら、常に保育環境の改善を行ってまいります。

《評価後取り組んだ事として》

職員間で第三者評価を振り返り、改善すべき事項に優先順位と期限を定めながら進めている最中です。

1. 個人の気づきは全体で共有し、組織としての同じ方向に進むことを大切にしていきます。
2. 保育の重要性が高まるとともに幅広い知識と専門性も必要ですので、内外部の研修には積極的に参加し、情報収集とスキルアップに努めて行きます。
3. また、法人内でも情報共有を行い、環境の違う園からも様々な意見を取り入れながらより良い保育環境づくりに邁進してまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり